

【肺炎球菌ワクチン(プレベナー13)について】

高齢者肺炎の原因の第一位の肺炎球菌に対するワクチンです。ニューモバックスと並んで肺炎予防に有効です。プレベナー13は「13価結合型ワクチン」といい、肺炎球菌の莢膜と呼ばれる多糖類に対して、キャリア蛋白を結合して抗原としたワクチンで、ニューモバックスに比べてやや複雑な分子構造をしたワクチンです。

このキャリア蛋白を結合させているおかげで、T細胞というリンパ球の活性化がおこり、B細胞から持続的に抗体が産生されることとなり、しっかりとした免疫応答ができるため、長期間にわたり肺炎の予防効果が期待できます。ニューモバックスと違い、1回の接種で免疫が持続し肺炎予防効果があります。

現在肺炎球菌ワクチンの定期接種はニューモバックスのみで、プレベナー13は任意接種となりますが、この2つのワクチンを併用することで、強い肺炎予防の効果を期待できます。

プレベナー13価格：自費 ￥12,000

ニューモバックスは60歳から5年ごと(65,70,75,80,85,90)に公的補助がありますが、ちょうどその年齢にしか補助が出ません。肺炎球菌が病原性を強く発揮するのは、菌体を覆う厚い多糖体の膜の存在です。膜がバリアとなり強い抵抗性を示し感染症が短時間のうちに重症化しやすい。莢膜の抗原性の違いにより、肺炎球菌は90種類以上に分類されます。ワクチン接種により産生された抗体が莢膜に結合することで、肺炎球菌は貪食されます。ニューモバックスは23種類の莢膜多糖体を含むので

23価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチンとも呼ばれ、肺炎球菌感染症患者の菌のうち、70%をカバーします。

プレベナーは13種類の莢膜多糖体を含むので13価肺炎球菌結合型ワクチンとも呼ばれ国内肺炎球菌感染症患者の肺炎球菌のうち48%をカバーします。

